

高機能プラスチックカンパニー

事業・製品・技術の「変革」による付加価値創出を通じて、
ひとびとの暮らしを進化させ社会課題を解決する

概要

高機能プラスチックカンパニーは、導電性微粒子、液晶用シール剤、自動車向け合わせガラス用中間膜などの世界トップシェアを持つ商品をはじめ、防災・減災に欠かせない耐火材料や雨水貯留システムなど、ひとびとの暮らしにおける安全・安心や快適性の向上、さらには環境負荷の低減を実現する高付加価値製品を中心に事業を展開しています。エレクトロニクス、モビリティ、住インフラ材分野に向けた先端材料をグローバル市場に投入する中で、独自技術の微粒子技術、粘接着技術、精密成型技術が大きな強みとなって発揮されており、グループ全体の収益力拡大にも大きく貢献しています。

リスクと機会

当カンパニーの業績に影響を及ぼし得るリスクには、生産コストの上昇につながる原材料価格の急激な高騰などがあります。新型コロナウイルス感染症をはじめとするパンデミックもまた、国内外の事業活動が制限を受け、経済が停滞するという点ではリスクの一つです。一方、パンデミックにより遠隔医療やスマート工場などの通信インフラ整備の重要性が増し、5G・IoTの普及が後押しされることは、当社のエレクトロニクス関連事業の売上拡大の機会となります。また他人との接触を避ける安全な移動手段として自動車を所有することの重要性が見直されれば、当社の自動車関連事業の拡大を後押しする可能性があります。



導電性微粒子



半導体向け実装材料



スマートフォンやタブレットに使用される液晶部材固定用両面テープ



自動車バンパー向け成型品



自動車向け合わせガラス用中間膜



塩素化塩化ビニル (CPVC) 樹脂コンパウンド



熱膨張性耐火材



雨水貯留システム

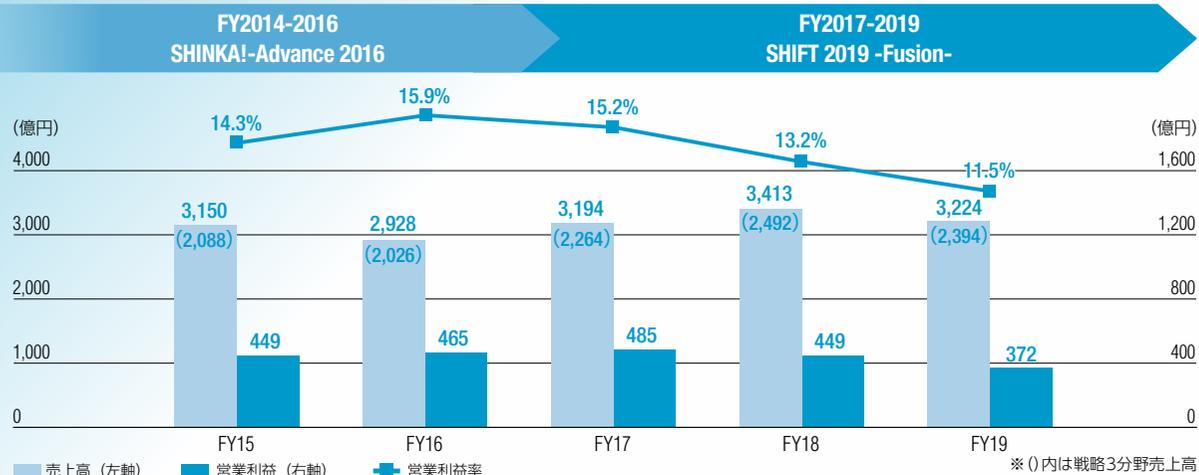
清水 郁輔

高機能プラスチックカンパニー プレジデント

高機能プラスチックカンパニーでは、プレジデント方針として「Business Innovation toward 2022『覚悟と挑戦』+変革」を掲げ、中期経営計画を推し進めます。一人ひとりが自分の仕事のやり方を変えることで、周囲も影響され、その結果として事業変革が起きるという想いを「Business Innovation」という言葉に込めています。挑戦する場を与え、失敗をしてもとがめない——。そうした組織づくりを通じて、現状に甘んじることなく、覚悟を決めて挑戦をし、変革を進めていきます。

業績推移と前中期経営計画の振り返り

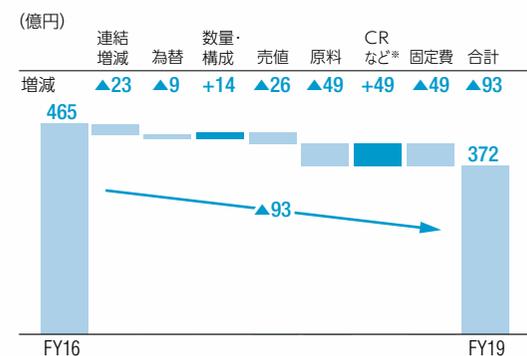
業績推移



	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019
為替レート (期中平均)	¥120/US\$ ¥133/€	¥108/US\$ ¥119/€	¥113/US\$ ¥121/€	¥111/US\$ ¥128/€	¥109/US\$ ¥121/€
主なM&A			2017年9月 ポリマテック社	2017年12月 ソフランウイズ社	2019年下期 AIM Aerospace社
主な戦略投資	2015年6月 タイ・増酸化塩ビ樹脂 工場稼働		2017年12月 メキシコ・中間膜 新ライン稼働	2018年4月 国内・車輪外装 部材新工場稼働	2018~19年 タイ、中国・フォーム 新工場稼働
					2020年上期 欧州・中間膜 新ライン稼働

前中期経営計画の最終年度となる2019年度の売上高は3,224億円と、初年度の2016年度から10.1%の増収となりました。戦略的な設備投資やM&Aなど、成長投資を積極的に進めた結果、固定費が先行しており、加えて円高の影響や、新たに連結対象としたSEKISUI AEROSPACE社の事業環境の急激な悪化に伴う業績の悪化、さらにはのれん償却費の負担増などにより、2019年度の営業利益は372億円と減益となりました。コスト削減や構造改革によって収益力は着実に向上しているものの、グローバル市況の急激な悪化の影響で、投資効果の発現に遅れが生じています。エレクトロニクス、モビリティ、住インフラ材の戦略3分野ではモビリティ分野を中心に高付加価値製品の拡販が進み、2019年度の戦略3分野の売上高は2,394億円と、2016年度比18.2%の増加となりました。

営業利益増減要因分析



※CR: コストリダクション

(億円)	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
資産	3,824	3,882	4,475	3,438	3,731
ROIC					9.1%
EBITDA	732	740	779	619	563
減価償却費	181	177	180	161	179
資本的支出	235	207	257	329	266
研究開発費	167	180	189	162	153
従業員数 (人)	7,453	7,269	9,735	7,795	8,078
連結子会社数 (カッコ内は海外)	62 (48)	57 (46)	67 (55)	68 (56)	65 (54)

※FY17以前はメディカル分含む

重要実施施策

項目	主な実施施策	
成長投資	戦略設備投資 (420億円)	欧州中間膜・PVB樹脂 車輪用放熱材 車輪外装向け成型品
	M&A (830億円)	ポリマテック社 ソフランウイズ社 AIM Aerospace社
構造改革	低採算事業の撤退 フォーム事業工場集約 (欧・米)	

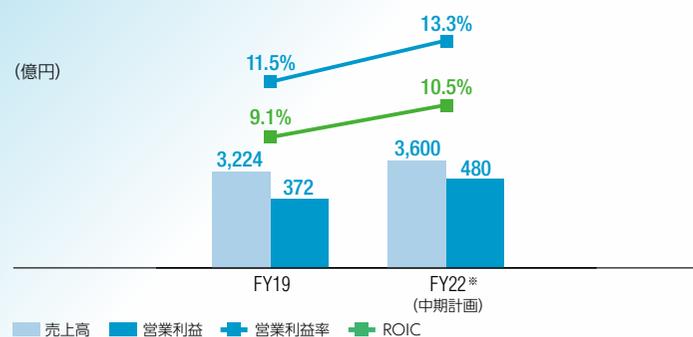
中期経営計画「Drive 2022」(FY2020-2022)

プレジデント方針

Business Innovation toward 2022
-Drive for the Next Stage-

「覚悟と挑戦」+ 変革

1 収益力(競争力) 2 成長エンジン 3 グローバルマネジメント(ESG経営)



今中期経営計画では、最終年度の2022年度に売上高3,600億円(2019年度比11.7%増)、営業利益480億円(同29.0%増)を目指し、高収益カンパニーとしての復活を図ります。2030年の業容倍増を見据え、戦略3分野のポートフォリオを強化して高付加価値製品の拡販を推し進めるとともに、SEKISUI AEROSPACE社など、これまで進めてきた成長投資の効果発現を図ります。また、購買から物流までのサプライチェーン全体のコスト革新を図りながら、国内外の拠点集約による省人化や低採算事業の見直しを進め、80億円の利益を創出します。さらに、グローバル人材の育成とデジタルトランスフォーメーションの推進を通じて、ESG経営の基盤強化を図ります。

イノベティブモビリティ

社会・暮らしを進化させ、さまざまな機器の発展を支える

2030年度
売上目標

4,500~5,000億円

ネクストフロンティア

新世代表示体/通信規格
(μ LED/量子ドット/ホログラム)
高強度材料 3Dプリンタ
新素材(生分解/バイオ素材など)
粘接着等制御(難被着体/異種接合など)
ライフサイエンス材

次期成長

エレクトロニクス

次世代D(miniLED)
5G(IoTインフラ)
ウェアラブル

モビリティ(車輻・輸送)

次世代車
(LiB、自動運転)
航空機(CFRP)

住インフラ材

高安全
省施工材料
圧電センサー

産業

環境対応
省人化

重点拡大(戦略3分野)

エレクトロニクス

次世代D(OLED)
外装/機構部品
半導体/電子部品

モビリティ(車輻・輸送)

高機能膜
(HUDくさび形中間膜/遮音・遮熱)
内外装材

住インフラ材

断熱/不燃材料
(不燃ウレタン・
断熱フォーム)

産業

包装、コンテナ他
環境対応
省人化

重点拡大 (戦略3分野) の中期経営計画とグロースドライバー

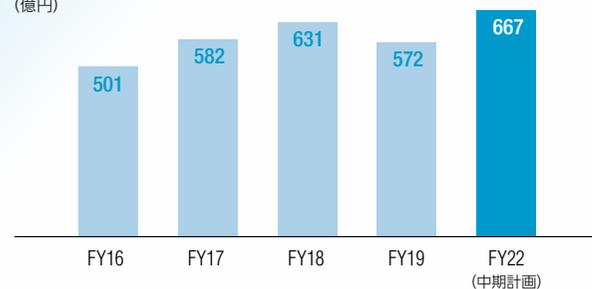
エレクトロニクス分野

導電・絶縁、熱マネジメント、ギャップ形成、緩衝・保護・接着などの機能を有する、微粒子、シール剤・接着剤、テープ・フィルムなどの製品を、各種ディスプレイや電器、通信機器、基板・半導体向けに提供しています。

中期経営計画では、液晶市況の回復は織り込まず、非液晶向け製品の拡販を通じて2022年度に売上高667億円(2019年度比16.6%増)を目指します。また分野全体の売上に占める非液晶向け比率も、2019年度の50%から2022年度には64%まで伸長させます。

売上高

(億円)



耐熱セルフア (半導体工程材料)

高い接着性と剥離しやすさを両立させたUV剥離テープです。UV照射によりテープと被着体の間にガスを発生させ、密着力をゼロにして簡単に剥がすことが可能です。通信技術の進化に伴って微細化・薄膜化するウエハなどを、ダメージなく加工することができます。



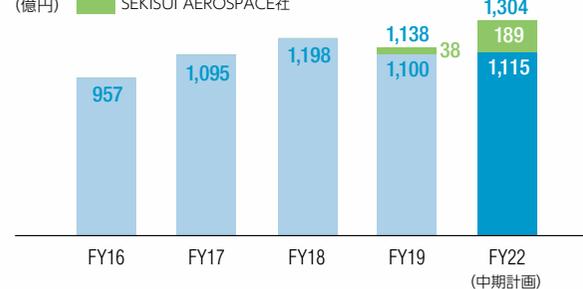
モビリティ分野

自動車向けに合わせガラス用中間膜や内外装向け発泡体・成形品を提供しているほか、電動化・自動運転デバイス向けに放熱材や電磁波対策素材を提供しています。また、航空機やドローンの内外装部品や炭素繊維強化プラスチック成形品も提供しています。

中期経営計画では、自動車市況の回復は織り込まず、高付加価値品の拡販を軸に2022年度に売上高1,304億円(2019年度比14.6%増)を目指します。中でも高機能中間膜の販売量は、2019年度から13%伸長させます。また、航空機関連部材を第2の収益の柱に育成していきます。

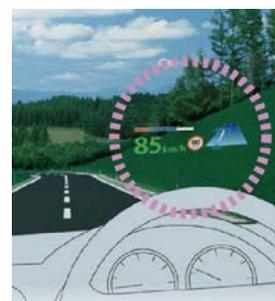
売上高

(億円) ■ SEKISUI AEROSPACE社



ヘッドアップディスプレイ (HUD) 向けくさび形中間膜

自動車のガラスに必要な情報を映し出すHUD対応のくさび形中間膜です。くさび角度制御や多層押出成形、さらには原料配合やナノ分散などのさまざまな技術の組み合わせで、遮音・遮熱などの複数の機能を働かせることもできるため、自動車の快適性や安全性の向上に貢献します。



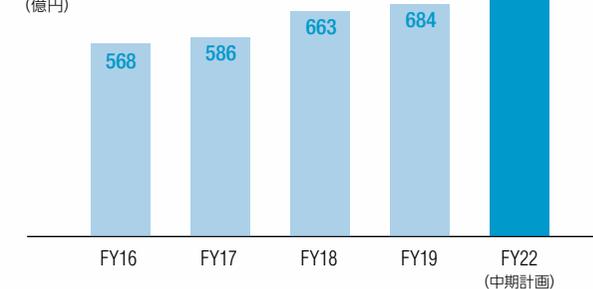
住インフラ材分野

耐熱配管向けの樹脂原料や、耐火・不燃・断熱材、雨水貯留材など、建築物やインフラの安全・安心や、社会課題の解決に貢献する材料・製品を提供しています。

中期経営計画では、注力する断熱/不燃材料の拡販に努め、2022年度に売上高784億円(2019年度比14.6%増)を目指します。

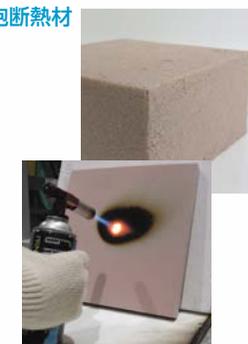
売上高

(億円)



不燃材料認定・ウレタン系現場発泡断熱材

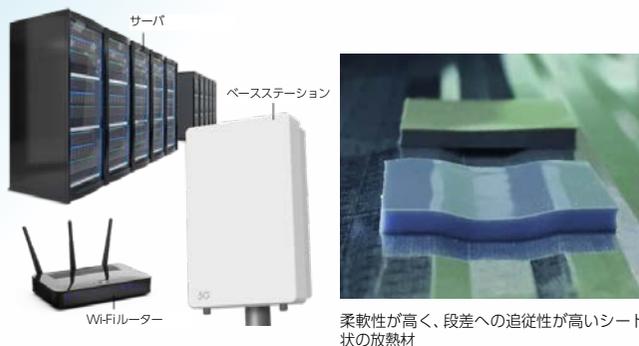
独自の樹脂配合技術により、有機材料としては初めて「国土交通大臣不燃材料認定」を取得したウレタン系現場発泡断熱材です。“ウレタンは燃える”というこれまでの常識を覆し、現場での引火などに起因する火災事故の防止にも大きく寄与します。また施工時間の短縮も図れるため、建設現場における人手不足の解消にも寄与します。



次期成長

5G 基地局など向け放熱材

当社独自の配合技術により、高放熱と柔軟性を両立。5Gの普及で通信速度が上昇し、ますます進化した高放熱体になるICチップの冷却に使用することで、5G基地局を熱から守り、高度化するITインフラに貢献します。



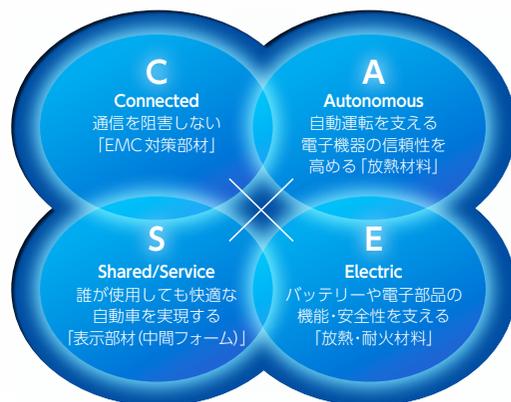
CASEの発展に貢献する各種製品

自動車業界のトレンドであるCASEの発展に貢献する、約40種類の積水化学グループ製品を搭載したコンセプトカーを制作しました。

※ CASE [C(Connected)]、[A(Autonomous)]、[S(Shared/Service)]、[E(Electric)]

CASEにおける積水化学グループの貢献

それぞれの文字が表すトレンドに対し、当社グループは、次のような製品、ソリューションを有しています。



自発光中間膜

フロントガラス全面に情報を表示でき、外部からも情報を見ることが可能に。歩行者に注意を促すなど、ひとびとの安全に貢献します。



放熱グリス

リチウムイオンバッテリーの熱対策に使用。高い熱伝導性を有し、環境負荷の少ない電気自動車の普及に貢献しています。



SEKISUI AEROSPACE 社

航空機内外装部品、炭素繊維強化プラスチック (CFRP) などの複合材成型品を製造。航空機材の軽量化や輸送機器の燃費向上に寄与しています。今後は、高付加価値なエンジン部材の比率を高めて製品ミックスを改善させるとともに、培った技術を活用して医療分野への展開も図ります。

航空機向け製品別売上構成比

